

ホーム名：グループホームジョイフルしらさぎ 1階 さくら					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、全体会議とユニット会議を行い話し合いの場を設けている。「ゆっくり・一緒に楽しい暮らし」を開設以来の理念で大切にしている。	フロアに高く掲げられた、しらさぎの理念は、長年に亘って現在も尚、管理者や職員の基本支援のあり方として、周知されている。事業所全体の取り組みも、理念の実践に向けた支援が行われている。	理念の実現と運営方針の融合的な具体支援のあり方について、これからも管理者や職員同士で話し合われるようお願いしたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近くの公園への散歩も行っている。美容室にも行かせていただいている。	事業所は自治会に加入し地元の一員としての自覚を持っている。近くの白鷺公園や、近隣の店舗に買い物に行く時もあり、挨拶などを通して地元へのイメージは明るい。またマジックショーや、ひよっこ踊りなどのボランティアの受け入れも行われている。	地元の理解を得られる事により、次なる協力への進展に繋がりがやすい。自治会についても、今まで以上に積極的に活用され、地元へ溶け込んでいく為の活動の拠点にされるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等でボランティアを募り認知症に対する理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報交換など施設の向上へ役立てています。比較的にリラックスした状態で意見や評価をもらう事もある。	運営推進会議は2カ月毎に行われている。地域包括支援センター以外にも民生員や地元会長、家族の代表にも出席を促している。管理者は、日常の福祉活動から幅広く意見や情報をもとめ、福祉支援のスキルアップの取り組みを図っている	推進会議では多くの意見や情報が提出され、その利用価値は高い。参加者の充実を図られるような働き掛けをされるよう望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	まだまだ密とはいかない為、今後もっと連絡をとれるようになっていきたい。	事業所の市町村に対する働き掛けはされているが、支援のあり方や介護の情報も積極的に取り入れると、事業所の内部支援のあり方もよい影響があると思われます。	現在ではまだ市町村と事業所の関係に、開拓の余地があるものと思われ、その活用方法を模索されて頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行っていない。しかし玄関の施錠に関してはご家族様にもきちんと説明をし同意を得ている。	事業所は「身体拘束はしない」という方針で徹底している。各居室のベッドには、ナースコールが取り付けられているが使われていない。入居者の生活と安全については、職員の看護りを基本とした保全対策が実施されている。玄関の施錠については、不審者の侵入を防ぐ為の安全上の意味が大きい。	身体拘束のない支援は今や一般化している。この基本方針を恒久的に堅持されて頂きたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に行き、外部研修を受けた者が内部研修を開催し会議の場で話し合い理解を深めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>行政の行う研修にも参加し学ぶ機会を設けている。必要に応じた対応を心掛けている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時には十分な時間をとりご入居者様の今後について話し合いを行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ事業所としての対応に心がけている。</p>	<p>家族の意見や要望の殆どは、家族が事業所に来た時にはなされる。最近の例ではスタッフの言葉使いについて誤解があったが、現在はそれも改善され、家族の信頼を得るに至っている。</p>	<p>家族が事業所に来やすいように、積極的な働き掛けをしている。これからも機会ある毎に働き掛けをされ、家族が話しやすい環境作りをお願いしたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に1度フロア一会議と全体会議を行い意見交換している。</p>	<p>職員の意見や要望が具体的に話せる場として、各ユニットのフロア会議と全体会議が与えられている。最近の議題では、家族にもっと声かけをしようという案も提出され、それが運営に反映されるよう努力されている。</p>	<p>それぞれの職員会議は意見交換の場でもある。互いに意見を述べ合い、結論を共有しあう事により、運営への反映に繋げやすい。これからもこの方針を守っていかれたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が直接スタッフ1人1人と話し合う機会を設けて頂ける事がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修にかかる費用は全額会社負担して頂けている。スキルアップを目指し内部研修も行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡会や見学会、ケアマネ連絡会などのネットワーク作りに協力的である。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>話をそのまま受け止めながら聴き納得されるまで継続する事で信頼関係を築く事ができている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>努力している。意思を伝えれない入居者については家族・関係者との連携を取り意向を確認する。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>申し込み時にも他の施設紹介なども行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>TVを一緒に観たり、本人の体調がいい時は軽作業してもらったりする事で支えあう関係ができています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来所時には普段の様子を伝えたり、来所頂けない家族へは瓦版等により様子等を報告している。毎月、全家族様に郵送している。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居時にはなじみの家具等を持って来て頂けるよう支援している。</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの馴染みの人や場所は把握しているが、本人の記憶が希薄な場合も多いという。職員は思い出の人や場所について語りかけ、入居者の心を和らげていくようにしている。</p>	<p>馴染みの人との関係維持には、家族との相談は不可欠であり、従来通りに機会ある毎に話し掛けをして頂きたい。身内のない方には、職員がよき相談相手になるようにお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の会話もあり、喋りかけるのが苦手な方には職印が間に入っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談援助はいつでも行っている。また面会に行くこともある。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の過去の情報や日常生活から思いをくみとっている。	職員は入居者一人ひとりについて、趣味は何か、好き嫌いは何かといった生活歴を聞いている。職員は互いにそれを共有しあい、その人に合った支援を心掛けている。	入居者の日々の変化についても、常に細かな観察が必要である。入居者の精神的な面の正確な把握と支援を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人、家族、ケアマネジャーから情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	往診医師・看護師等にも密に連絡し状況把握に努めている。個人ケース記録の見返しも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を理解する事ができるように必要に応じて個別会議を行い対応に応じている。	管理者は家族や職員らの意見も取り入れ、一人ひとりの特性も踏まえた介護計画作りをしている。特に、期間を定めず月に一回位の見直しをし、実際に即した計画と実践をしている。	入居者の個性を大切にされ、家族ともよく相談された介護計画をされている。これからも、この方針を堅持されるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設独自のシートにてご本人の生活把握に努めている。水分・排泄パターンを知り、生活状況の把握も比較的スムーズにできている。職員間の申し送りも毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の要望にもこたえるように努力し、スーパーへの外出支援なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園やスーパーなどには毎日出かけ、月末の古紙回収など参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の医師が2週に1度訪問して頂き、顔なじみのナースによる訪問看護も受けている。	入所後も以前からのかかりつけ医は可能である。現在は家族の同意を得て、殆どの入居者が協力医である東和病院の往診を受けている。眼科や歯科の専門医も定期検診があり、入居者の健康維持に努めている。	入居者の体調急変時の対応については、常に職員同士で共有した認識が求められる。今後も、入居者の健康維持に留意されるようお願いしたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回の訪問看護があり、時には連絡した際にも来て頂ける。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院されている間は、様子を病院関係者との情報交換するとともに、面会、電話にて状況確認にも勤めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族。病院とも話しあい看取りを行っている。</p>	<p>入居時に話し合いがなされ、家族の要望があれば看取りまでの世話をする。具体的な事は重要事項に記載されており、現在では全員の家族が看取りまでの介護を希望している。平成28年には2人の方に尊厳ある看取りをされている。</p>	<p>重度化から終末期までの間、職員は愛情と尊厳ある介護に徹している。これからも、今までと同様の、惜しめない温かな介護を続けて頂きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>会議の時救命講習を定期的に行い対応できるよう努めている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設近隣に職員3名の自宅があり何かあればすぐに駆けつけられるようにしている。年に2回消防訓練を行い、避難経路の確認も行っている。</p>	<p>年2回の避難訓練が実施されている。内1回は消防署の立ち会いで行われ指導を受けている。自主訓練はマニュアル書に従って行われている。消火器は各フロアに2個ずつ設置され、各居室にはスプリングクレーが取り付けられている。調理場はIH器具を使用し、ガスは使われていない。</p>	<p>避難訓練は職員が中心になって実施されるが、入居者も含めた訓練も考えて頂きたい。難しい事かもしれないが、消防署の立ち会い時にアドバイスを受けながら実施され、緊急時に備えられるよう望みます。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る時など必ず声かけを行い、会議等でプライバシーの重要性について時間をかけ話し合い意識している。	プライバシー確保についてはよく話し合われている。目標達成計画にも掲げられている。難しい排泄時の対応についてもそれとなく声かけをして、入居者の自尊心を傷つけないような配慮がなされている。	職員は入居者の方々が人生の先輩者である事をよく自覚されている。この認識はプライバシー保護の精神にも繋がるものと思われる。これからもこの方針を堅持されるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日などその方の嗜好を聞き昼食等に取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望で食事の時間など希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の化粧品の購入などの支援も行っている。外出時など職員が化粧を行う事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方にはなるべくテーブル拭きやお片付けをお手伝いして頂いている。	朝食は近くのスーパーで食材を仕入れて調理される。昼・夜食は給食業者を通してホームに運ばれ調理されて配膳される。入居者に出来る事は手伝ってもらえるようにし、皆との一体感の中で生き甲斐を見出している。また、おやつ時の楽しいひと時もある。	入居者が直接たずさわる事の出来る簡単なおやつ作りも、楽しさと生き甲斐にも繋がるものである。試行錯誤を繰り返しながら、入居者に喜んでもらえるようなおやつ作りをするよう望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	看護職員、栄養士からのアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンに応じ、声掛け誘導を行っている。	職員は入居者一人ひとりの排泄時を把握している。出来る限り、自立で排泄できるようにとの方針のもとで、可能な限りの看護リ支援をするようにしている。	入居者の状況が常に変化している中で、自立支援のあり方も常に変化する。今、どのような支援が必要なのかを話し合われ、有効な方法を共有されて頂きたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳などを利用し便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間は決めているが希望に応じるように勤めている。	入浴は午後から3回行われ、一人ひとりには週2回の入浴がある。湯はそのつど入れ替えられている。浴室にはリフト式の機具が設置され、安全な入浴が行われている。肌着の交換も入浴時に行われている。	入居者にとって、入浴時間が楽しいと思って貰えるように、入浴剤の投入なども考えてはどうでしょうか。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	共有スペースのソファを使ってもらい夜間帯居室の温室管理、寝具状態を確認し安心して寝てもらえる環境を作っている。		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	個人ケースに薬事情報を貼り専門員からのアドバイスも受けている。服薬支援も行っている。		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	嗜好に合わせ色塗り・編み物読書などにも対応出来ている。		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	毎年、6月、11月には日帰りで外出しており、時には家族にも協力を求め行っている。	散歩は週1～2回行われている。少し離れた所に白鷺公園もあり、気分転換にもなっている。時には車を利用して、大店舗のマックスバリュまで買い物に行く事もある。家族の協力があれば、遠出をする時もある。	個人差も考えられるが、外出願望のあまりない入居者にも、更に積極的にホームの外の世界との接触を促すような、積極的な支援も願いたい。
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	個々に応じた対応を家族と話し対応している。		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	携帯電話を持っている方もおり家族に電話したり使い方がわからない時は職員が教えたりしている。		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節に合わせて、季節折々の絵など作品を飾り季節を感じてもらえるよう努めている。	落ち着いたある広い共用空間は、明るさもほどよく、入居者にとっては「ゆっくりと、一緒に楽しい暮らし」が出来る場所である。壁には職員と一緒に作った季節感のある七夕の飾りや、入居者が描いたぬり絵もあり、楽しい雰囲気に包まれている。	入居者は一日の殆どを共用空間で過ごしている。この大切な空間を今後も、より一層楽しく過ごせるような工夫をし、潤いのある空間づくりをお願いしたい。
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	1人になりたい時は自らお部屋へ入室される。プライバシーをしっかりと守られている。		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居契約時に出来るだけなじみの物を持って来て頂いている。仏壇の持ち込みも可能である。	各々の居室には、各人の馴染みの家具や好みに合った衣裳や置物がある。職員は入居者一人ひとりの生活感覚を把握され、その人の意向にそった部屋づくりに協力している。	運営の方針である「その人らしい生活を送っていただく。」がここでも活かされている。この大切な居室空間をこれからも守ってあげて頂きたい。
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	行動を見守り安全に過ごせるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない